



東京都立高島特別支援学校

外部専門員通信

Vol.2

令和7年11月13日

校長 石川 拓

外部専門員の活用事例を紹介します

今年度も本校教員の専門性を高めるため、10職種 14名の外部専門員をお招きし、授業観察や教員への指導・助言をしていただいています。

今回は、本校外部専門員の佐野幸子先生より、ABA（応用行動分析）の視点から「行動の基礎基本」について紹介をいただきました。実際の相談事例と併せてお読みください。

「行動は学習の成果です」

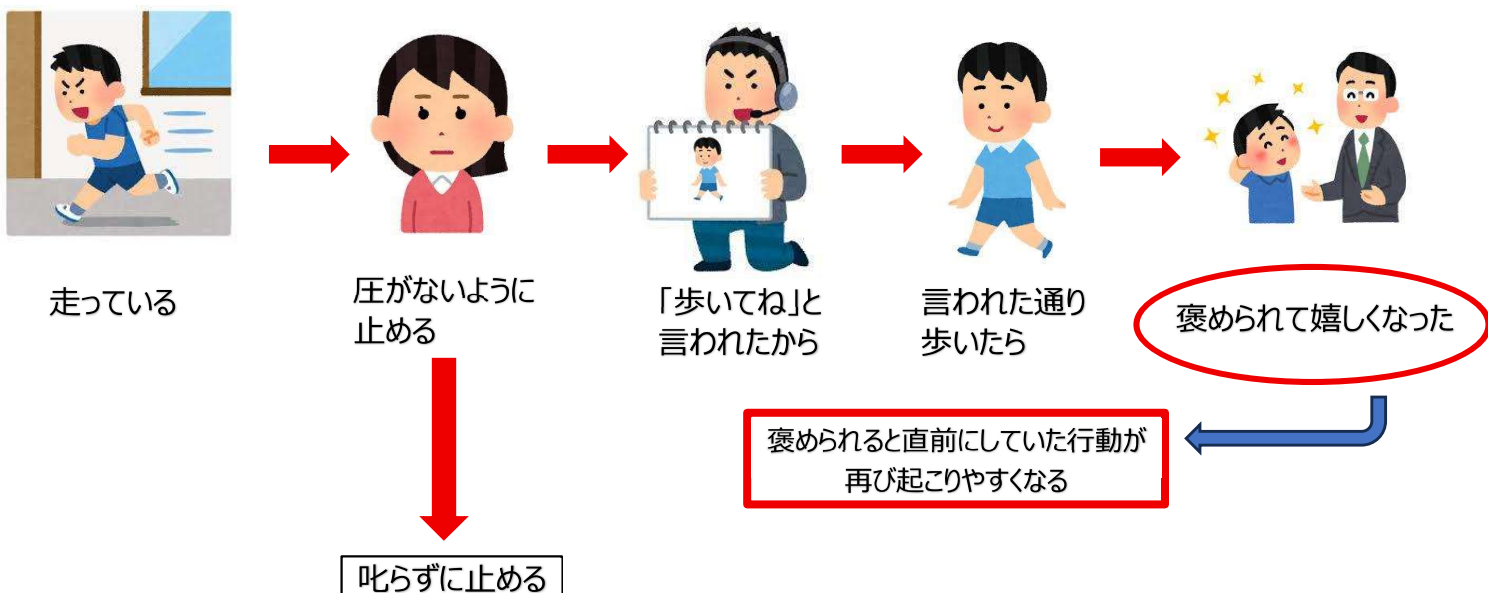
外部専門員 佐野 幸子 先生（学習アドバイザー）

「行動のしくみ」を使って、人の成長や学びを支える心理学の方法で皆さんを支えています。

人の行動（B）には、必ず「きっかけ（A）」と「結果（C）」があります。たとえば、子供が「できたね！（C）」と褒められると、その行動（B）はうれしくて増えていきます。逆に、注目されなかったり、うまくいかない経験（C）が続いたりすると、その行動は減っていきます。

このような行動の流れを丁寧に観察し、「なぜその行動が起きているのか」を考えます。そして、子供がよりよい行動をとりやすくなるように、環境を整えたり、褒めるタイミングを工夫したりします。環境とは、例えば、先生の言動、教室の雰囲気や机の配置、家族の対応、音や光など、子供の行動に関係する外の条件全てです。お子さんが「どんな行動をするのか」「どんな時に泣くのか」などを具体的に見て、「なぜそのような行動が起きたのか」「どんな刺激や環境が関係しているのか」などを考えます。

叱るよりも、「うまくいく方法と一緒に見つける」ことを大切にしています。小さな成功を積み重ねながら、「できた！」という経験を増やし、自信や意欲を育てていくことが目的です。



（以上、佐野）

活用事例の紹介

佐野先生の助言をもとに、次のように取り組みました。

○相談内容

国語の授業中、手渡されたカードを保持したまま所定の場所に貼る活動で、教員の指示に従わずに手渡されたカードを投げてしまう。

○改善案

- ・カードを渡す際「持っていてください」と伝える。
- ・カードを投げてしまった場合は、真顔で「拾ってください」と伝え、拾った場合は称賛する。
- ・拾わない場合は、あえて目を合わせず、授業を進める。拾ったら称賛する。

○改善後の様子

本児は当初、カードを受け取らないこともあった。すると「やらない？じゃ、次の人にお願いしようかな」などと先生から声を掛けられた。このことで「やりたくない時には受け取らなければいい」といった、学習の目的自体が達成できない状況に陥ることがあった。

しかし、この取り組みを継続していくことで、年度末には教室内の児童全員が確実にカードを受け取り、マッチング課題に取り組むことができた。



○まとめ

児童・生徒の望ましくない行動には、すぐに注意をしまいがちです。しかし、叱るのではなく正しい方法を分かりやすく伝え、「できたね！」と褒めることで正しい行動を増やしていく必要性を感じました。

個別指導計画に基づき、保護者と指導の共有を図りながら、児童・生徒の良い行動をたくさん増やしていきたいと思います。佐野先生には、授業や休み時間の様子を専門的な立場から、一緒に対応策を考えていただいています。

今後も、児童・生徒が「できた！」「褒められてうれしい！」という経験を積み重ね、充実した学校生活が送れるように外部専門員を活用しながら日々の指導に取り組んでいきます。

（文責：有井 春花）

【問い合わせ】
東京都立高島特別支援学校
Tel 03(3938)0415
副校長 田中 美奈
主任教諭 鈴木 悠介